＜２０２２年度事業報告書＞

【概　況】

2022 年度は、（公社）日本ローイング協会や他競技の大会実施状況、東京都の感染防止対策の指導指針等を参考に、各本部において必要な感染防止対策を施し、通年事業を継続することができました。

一方で、今年の各事業や大会の参加クルー数をみると新型コロナ第７波の影響を大きく受け、各大会の収入が伸びず、当協会の収支に影響を与えました。

しかしながら、2022 年度は１年を通して活動ができたことに加え、栃木国体関東ブロック大会を海の森水上競技場で無事に開催出来たことは、当協会にとりまして今後に繋がる大きな成果です。

これもひとえに、加盟団体の皆様、東京都はじめ関係各区および地域の皆様、（公社）日本ローイング協会・関東漕艇学生連盟ほかボート関係者の皆様、そして当協会顧問・理事・常任委員の皆様のご理解とご尽力があってのもので、あらためて皆様に御礼申し上げます。

さて、ここで年度初めに掲げた５つの目標について振り返りたいと思います。

◎1 点目：with コロナにおける協会運営の理想的な姿の確立

これは、ひと言で申し上げますと、対応力適応力を発揮して協会事業をやり切ることができる、“with コロナ”の協会運営です。皆様のおかげをもちまして、安定的に現場運営が出来るようになり、大きな進展があったと思料します。

◎2 点目：海の森水上競技場利用に向けた準備

2022 年度施設が供用開始され、当協会は東京都の要請で栃木国体関東ブロック大会を海の森水上競技場の０～1,000ｍで実施しました。この経験により、当協会は今後の大会運営や地域スポーツクラブの運営や競技場個人利用時の課題を明確にすることができました。

1,000m レースのスタート方法の検討を東京都・カヌー連盟と進めるとともに、安全対策や公共交通機関の拡充の提言などを東京都・指定管理者に対して行いました。

◎3 点目：栃木国体関東ブロック大会開催

皆様のご尽力により無事に大会を実施できました。

◎4 点目：海の森水上競技場をベースとする総合型地域スポーツクラブの設立準備

ボートとカヌーで地域型スポーツクラブを立上げ、総合型に移行する流れで設立準備を進めています。監督官庁（都、江東区等）との事前協議、クラブおよび海の森水上競技場の利用団体候補のトライアスロン連合、ドラゴンボート協会との意見交換も始めております。

2023 年春の設立に向け準備を進めております。

◎5 点目：財政面での強化案の検討

加盟団体の大会参加にかかる費用負担がなるべく増えないようにどう配慮できるか、一方で協会運営に必要な収入源の確保と大会の収支を如何に改善するか、加盟団体の皆様と当協会の利害が大きく異ならないため、収入を海の森水上競技場と戸田漕艇場をどのように利用するか、検討を重ねております。更に、協会の財務体質強化について検討を開始しました。

各本部の事業報告は以下の通りです。

1. 競技開催事業

別表１の通り競技会を開催した。

新型コロナウイルス対策は、3 月開催のお花見レガッタ他では、無観客及び自転車伴走禁止としたが、6 月以降の大会では以下 3 点のみとした。
・健康調査質問票の提出と体調不良者の参加自粛
・マスクの着用（水上にいる選手のマスク装着はクルーの判断）
・表彰式の中止（入賞者には大会本部で表彰状を授与）

2. 普及事業
・新型コロナウイルスの感染は、2022 年度になっても収まらず、6 月 26 日の第 6 回東日本マスターズ競漕大会はコロナ禍にも関わらず、男子エイト 10 クルー出漕と盛況裡に終了した。一方、11 月 19 日、20 日に行われた第 22 回谷古茂盾争奪マスターズ競漕大会並びに第 12 回小学生交流レガッタの両レガッタともに感染防止対策を施しながら実施した。
・第 22 回谷古茂盾争奪マスターズ競漕大会は女子エイト 2 クルー、男子エイト 24 クルー、第 12 回小学生交流レガッタは 12 クルーが出漕し、老若男女の熱戦が繰り広げられ、戸田ボートコースでのレースを楽しんだ。詳細は別表 2 のとおりである。
・ボート競技の底上げと競技人口の増大を目的として、従来から多摩川、東大島、水元、日本橋川、東墨田の都内 5 拠点を中心にボート教室、各水域のローカルレガッタ、マシンローイングイベントを展開してきた。2022 年度も新型コロナ禍で多くの拠点で中止を余儀なくされたが、一部において感染防止対策を施し実施した。詳細は別表 3 のとおりである。
・7 月中旬の全国中学生選手権競漕大会は、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で参加した。当協会所属団体から数クルーが出漕し、男子シングルスカルが第 6 位入賞した。

3. 強化事業
・東京都代表クルーのブロック大会、国体結果は、別表４、５のとおりである。
・当協会所属選手の海外大会への参加状況は別表 6 のとおりである。
・栃木国体に向けて選手の強化、競技力向上を図った。
・ジュニア選手を対象に強化合宿および講習会を実施した。
・トップアスリート事業 13 期生については専門プログラムを実施した。

４．審判事業
(1) 所属審判員
2022 年 11 月 1 日現在 A 級 4 名、B 級 9 名、C 級 104 名(昨年+ 9 名)　参与 2 名の 119 名(昨年+ 8 名)の審判員が所属している。
(2) 審判派遣状況
当協会の大会は無観客等の制限がかかっていたものもあったが、感染対策を講じた中で全大会が開催できたこともあり、(公社) 日本ローイング協会、他協会等への派遣も含め、延べ 373 名(昨年+115 名)に審判機会を提供することができた。2022 年度は各大会への派遣状況は別表 7 のとおりである。
(3) C 級試験
1 月 29 日、7 月 30 日の 2 回 C 級審判員試験を実施、東京にて 18 名の新 C 級審判員が誕生した。当協会審判本部から各大学の対校戦に積極的に審判派遣するようになったこともあり、大学 OB の審判資格者が増えている。

(4) B 級審判員昇格

本年度は昇格者なし

5. 事業報告の付属明細書

2022 年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。